

『二学期を終えて』

この二学期は、僕たち三年生にとって、とても大切な時期であったと思います。ひとつは、年間で大きな行事、東中祭があったことです。もうひとつは、受験という大きな目標に向けて、しっかりした道筋を考えていく時期であったということです。

東中祭は、僕たち三年生にとって、中学生生活の中で、みんなで取り組む最後の行事となりました。一、二年生のときも、もちろん精一杯取り組んできましたが、そのときとは違った、気持ちや意気込みが感じられました。全体練習では、先生からの指示や助言を、各自が的確に受け止め、表現することができ、前年度より、集中力、呑み込みの早さ、気持ちの向け方など、比べものにならないくらいの成長を感じました。クラス練習では、最優秀賞というひとつの目標に向けて、クラス一丸となり取り組みました。各クラス、観ているみんなを楽しませるような工夫をし、お互いに良い点、改善点を見つけては声を掛け合い、励まし合い、時間のある時ではなく、みんなで時間を作って、練習に取り組みました。ひとりひとりが、より良いものにしていこうという強い気持ちを感じられました。このような過程を経て、素晴らしい、東中祭となったのだと思います。一年生、二年生にも、この気持ちが伝わっていたら嬉しいです。

東中祭を終えると、いよいよ受験という今までにない大きな目標がせまってきました。一学期には、漠然としていたものが、この二学期には現実的なものとなり、自分で二学期には考え、行動し、決断に悩み、戸惑いました。しかし、自分一人の力で、ここまでこれたのではありません。決断するまでには、周囲の人々の助言や支えがあったことです。夏休み明けから定期テストや受験の話題も増え、一喜一憂する中で、緊張感も高まり、不安も大きくなってきました。だからこそ、勉強への取り組みに対する意識が、以前とは変わってきたように思います。その気持ちの変化が、自信や安心感につながっていく

のではないかと思います。また、友達と今の気持ちを共感し合ったり、励まし合うことも、気持ちの安定につながるのだと思います。

三年生の二学期は、大変な時期ではありますが、自分自身がいろいろなことにきちんと向き合い、真剣に精一杯、考え、悩み、成長できる、大切な時間ではなかったかと思っています。そして、人との関わり大切さや、感謝の気持ちも、忘れてはいけなと思っています。三学期は、志望校合格という大きな目標だけでなく、卒業するということも意識し、日々を楽しく、精一杯過ごしていきたいと思っています。